



○ 子供たちの遊び場の整備について
○ ヤングケアラーについて

その他の質問
・高齢者の交通手段について

新風会・公明
吉田将克
議員



議 子供のインドア化が社会問題として取り上げられており、これは公園の遊具を撤去したり、公園をなくした結果、子供たちの遊び場を奪うことでインドア化につながっている。公園がない地区についての勝山市の今後の取り組み方針を伺う。

理 現在、勝山市が直接管理する公園は、市内に31か所ある都市公園と、2つの緑地となっている。これら都市公園の遊具は、職員が日常点検を行い、不具合箇所の早期発見と補修により安全性の確保に努め、点検結果を公園長寿命化計画に反映し、計画的な施設改修を実施している。

一方、都市公園がない地区では、自治会が神社の境内等に遊具を設置し、地区の公園として維持管理されてきた。しかし利用者の減少や老朽化で維持管理が困難な遊具は、各地区で市の遊具撤去補助を利用して撤去いただいている。現在、市として新たな遊具の設置補助はないが、コミュニティ助成事業のメニューに地区の遊具設置があるので、地区でのご活用をご検討いただきたい。

議 勝山市の子供たちはヤングケアラーを認知しているのか伺う。

また、子供たちにアンケートを取る等ヤングケアラーの把握状況を伺う。

さらに、ヤングケアラーへの支援状況について伺う。

理 市では、市内の小中高等学校等にポスター、リーフレット等を配布し啓発している。早期にヤングケアラーを発見し、支援につなぐため、子育て世代包括支援センターなど、多様な相談窓口を設け、身体的・精神的に困っている子どもたちの把握に努めている。また、学校でも、日々児童生徒の表情や様子を観察し、学期ごとに教育相談週間を設け担任やスクールカウンセラーと面談を行っている。

気がかりな家庭はある程度把握しており、福祉、介護、医療、教育といった分野が連携し、情報共有やケース会議、家庭訪問などを行い支援をしている。こども家庭庁では、子どもの年代に応じた的確な支援を行うために、実態調査を行うとしており、動向を見ながら、支援のあり方についても研究をしていきたい。

議 市民から「なぜ、新中学校を勝山高校の敷地内に併設するのか」との不安や反対されている声があるが、教育委員会にはどのような声が届いているのか伺う。



○ 新中学校を勝山高校の敷地内に併設することについて
○ 開善寺と義宣寺などを活用した旧勝山町の復興について

その他の質問
・図書館と市史編さん室の合併について
・人口減少対策としての移住・定住の促進について

優政一心会
富士根信子
議員



議 市民から「なぜ、新中学校を勝山高校の敷地内に併設するのか」との不安や反対されている声があるが、教育委員会にはどのような声が届いているのか伺う。

理 昨年7月から4会場で行った市民説明会、今年1月から10会場で行った子ども子育て保護者説明会、同じく1月に行った建設基本計画のパブリックコメントの中では、新中学校に対して不安や心配に感じることで、人間関係に関するもの、施設に関するもの、スクールバスの運行に関わるものなどの意見をいただいている。今年度、小中学校の教員、全ての中学生と語る会で直接意見を聞いていくが、中学生から同様の声がある一方、期待や、施設設備、教育内容をより良いものにする要望をたくさんいただいている。

議 開善寺は現在無住寺だが、小笠原氏の菩提寺であり、場所は市の指定文化財である。

理 福井工大の勝山市文化財保護審議員の先生が、本堂の屋根の損傷が激しく早く保存活用を図ることが大事だと話された。また旧城跡に小笠原氏が城を建て義宣寺も大切に守ってきた。開善寺と義宣寺を一体とらえ、この両寺を核として旧城下町の武家地の代表的建築物として旧勝山町の復興を考えてはどうか見解を伺う。

議 旧勝山町域の歴史や文化を知る取組として、市の文化財関連施設での展示をはじめ、講演会、見学会、市民総合大学などを通じて、地域の貴重な歴史・文化について知っていただき、学んでいただくような取組を進めていきたい。本家勝山小笠原の会の方にも、開善寺を中心しながら、ほかの歴史文化遺産と連携を図るとともに、これまでの活動をさらに広げていただき、1人でも多くの市民の方に貴重な歴史・文化を知っていただく機会を地元の方と一緒に考えて取り組んでいただきたい。

議 新中学校は勝山の未来における最重要課題。唯一の中学校を建設するのならば市民の意見を聴き、その声に耳を傾けて、その是非に対する市民の対話集会をはじめ検討委員会や議会での検討を提案する。